

# いすみ市地震防災マップ

保存版

..... 夷隅地域 .....

日本列島は、古くから繰り返し地震による被害を受けてきました。最近でも平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震、平成19年の新潟県中越沖地震、さらには平成23年の東日本大震災などが発生しています。これらの地震による被害のひとつとして、倒壊した住宅に押し潰されて亡くなる「圧死」が多くなりました。このような被害を減らすためには、住宅等の耐震化が重要になっています。

本市では、考えられる最も大きい地震が発生した場合に予測される各地域の震度を示した「揺れやすさマップ」、及び地域ごとの建物被害の危険性を示した「地域危険度マップ」を作成しました。住民のみなさんが自宅周辺や通勤・通学路などの「揺れ」、及び「建物被害の危険性」を確認し、地震への備えを行うために「地震防災マップ」をお使いください。

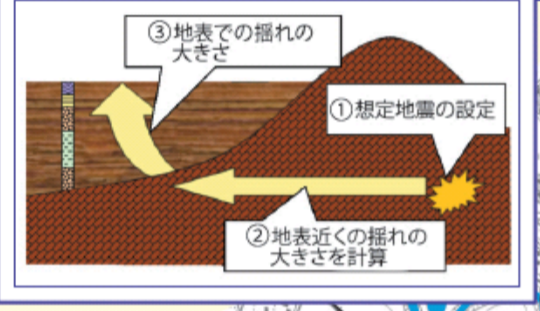
平成24年1月：いすみ市  
電話：0470-62-1111(代)  
E-mail: kenchiku@city.isumi.lg.jp

震度階級	震度6強	震度6強	震度6弱
計測震度	6.1	6.0	5.5~5.9

記号	名称
	避難所
	避難場所
	国道
	県道・主要地方道
	鉄道(私鉄)
	市町界
	地域界
	水面

## 揺れやすさマップ

- 揺れやすさマップができるまで
- 本市内の地点ごとに、考えられる最大の震度を表示したのが、揺れやすさマップです。揺れやすさマップは、地震防災マップ作成技術資料(内閣府、平成17年3月)を参考に、次の手順で作成しています。
- ①本市に大きな影響を与えることが予想される地震を選び、震源や規模などを設定(「本市で想定される地震」に示した地震について検討しました。)
  - ②それぞれの地震について震源からの距離と揺れの強さの関係を用いて、地表近くの硬い地盤までの揺れの大きさを計算
  - ③表層の地盤の揺れやすさを加味して、想定される地震ごとの震度分布図を作成
  - ④想定される地震ごとの震度分布図のうち、その地域で最も大きな震度を採用し、揺れやすさマップを作成

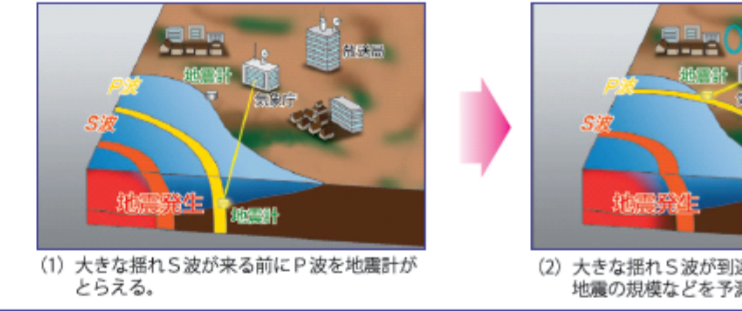


## 緊急地震速報

地震はP波と呼ばれる小さな揺れのあと、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒から数十秒前に発表するものです。

ただし、震源の近くでは、情報が間に合わないこともあります。また、予測震度で、プラスマイナス1程度の誤差があるといった技術的な限界もあります。しかし、わずかな時間を生かして、地震の被害を減らすことができるものと期待されています。

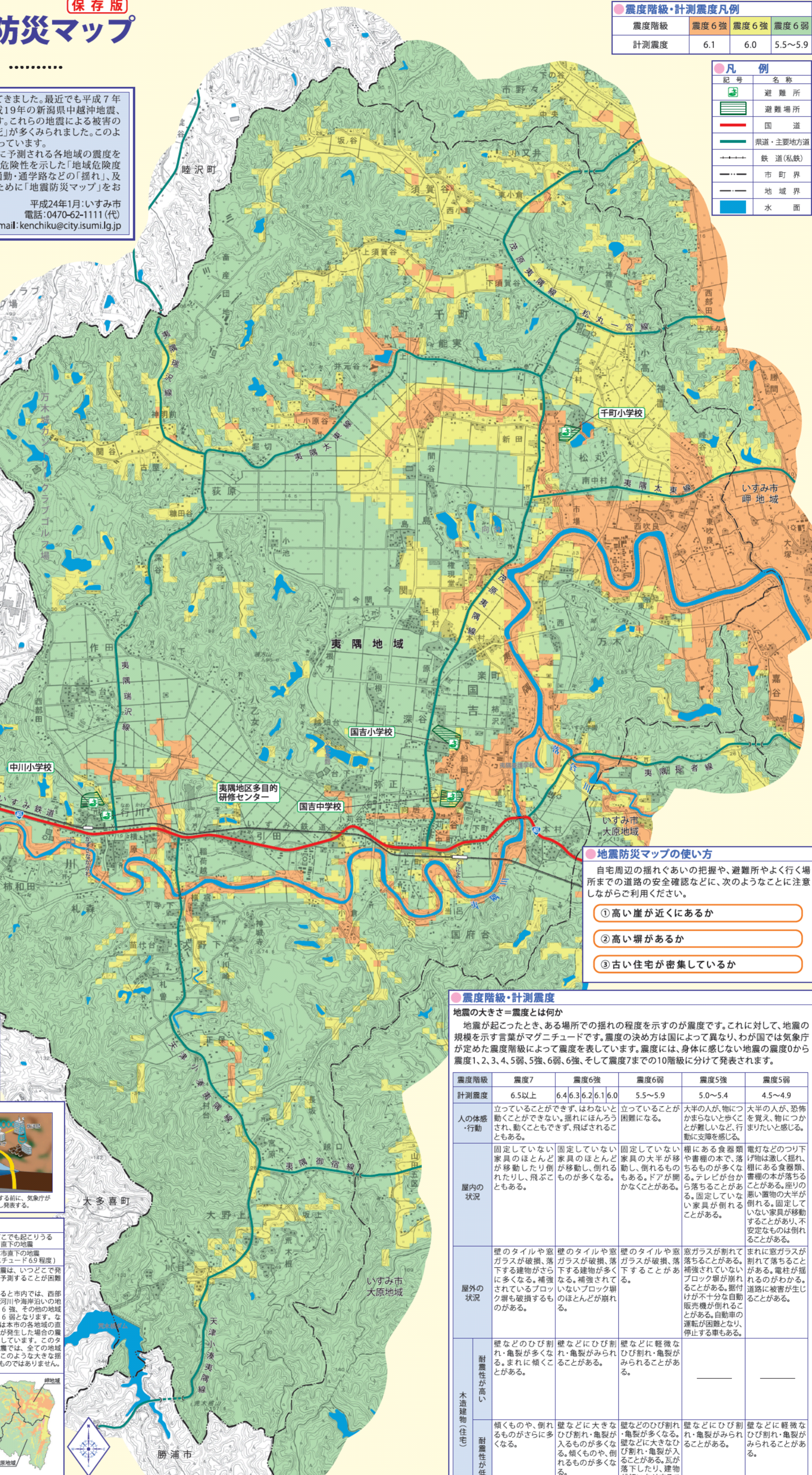
テレビやラジオなどを通じて、速報の発表がされます。本市では、防災行政無線でもお知らせします。



## 本市で想定される地震

地震のタイプ	活断層で発生する地震	プレート境界で発生する地震	全国各地でも起こりうる直下の地震
想定する地震	鴨川低地断層帯で発生する地震(マグニチュード7.2程度)	東京湾北部地震(マグニチュード6.9程度)	本市直下の地震(マグニチュード6.9程度)
地震の概要	未解明な部分が多い活断層ですが、地震が発生すると、多くの地域では、震度5強、北部や中央部の一部の地域では、震度5弱となります。	近い将来、関東地方南部のいずれかで起こる可能性の高いプレート境界のマグニチュード7級地震のうち、東京湾北部に断層をおいた地震です。関東地方全域で見ると、今後30年以内の発生確率70%程度、50年以内の発生確率90%程度と推定されています。発生すると市内では、北部や南部の一部の地域で震度5強、その他の地域では震度6弱となります。	この地震は、いつどこで発生するか予測することが困難です。発生すると市内では、西部と東部の河川や海岸沿いの地域で震度6強、その他の地域では震度6弱となります。なお、下図は本市の各地域の直下で地震が発生した場合の震度を表示しています。このタイプの地震では、全ての地域で同時にこのような大きな揺れになるものではありません。
本市で予想される震度			

※市内で発生する大きな地震は、「活断層」として記録され、数千年周期で繰り返し活動をしています。一方、地表に現れていない「活断層」が活動し、大きな被害を及ぼすことがあります。このような地震の規模は、マグニチュード6(規模最大で6.9程度)までですが、全国各地でも発生する危険があります。



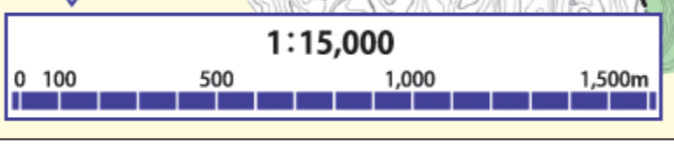
## ● 地震防災マップの使い方

- 自宅周辺の揺れぐあいの把握や、避難所やよく行く場所までの道路の安全確認などに、次のようなことに注意しながらご利用ください。
- ① 高い崖が近くにあるか
  - ② 高い塀があるか
  - ③ 古い住宅が密集しているか

## ● 震度階級・計測震度

地震の大きさ=震度とは何か  
地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を示すのが震度です。これに対して、地震の規模を示す言葉がマグニチュードです。震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定めた震度階級によって震度を表しています。震度には、身体に感じない地震の震度0から震度1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、そして震度7までの10階級に分けて発表されます。

震度階級	震度7	震度6強	震度6強	震度6弱	震度5強	震度5弱
計測震度	6.5以上	6.4	6.3	6.2	6.1	6.0
人の体感・行動	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうさせられ、動くこともできず、飛ばされることもある。	立っていることが困難になる。	立っていることが困難になる。	大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
屋内の状況	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたり、飛ぶこともある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものも多くなる。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものも多くなる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀が破損するものがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀が破損するものがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀が破損するものがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀が破損するものがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が倒れることがある。付付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
木造建物(住宅)	耐震性が高い	耐震性が低い	耐震性が低い	耐震性が低い	耐震性が低い	耐震性が低い



この地図は、国土院の提供を受けた、国土地理院の2万5千分の1地形図を基に作成されたもので、(発行番号) 平22地調第145号)無断で複製することを禁じます。  
※計測震度は、震度計で計測される震度です。  
出典：気象庁震度階級解説表